

平成19年1月学術講習会

(社)日本鍼灸師会
(社)東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 661 回
(2007.1.28)

演題および講師

プライマリ・ケア診察編

「日常臨床での気になる症状・身体所見」

- 知っておきたい危険な症候 -

東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター長

大学院医歯学総合研究科臨床検査医学分野 教授 奈良 信雄

プライマリ・ケア鍼灸編

「筋・骨格系の症状？もしかして！」

鑑別法とインフォームドコンセント

東京衛生学園 臨床教育専攻科 講師 小川 卓良

「日常臨床での気になる症状・身体所見」

知っておきたい危険な症候

奈良 信雄

鍼灸師が日常のプライマリ・ケア診療において重要なことは、患者の症状を正確に聴取し、身体所見を確認した上で、適切な治療を行う点である。とくに、鍼灸臨床において重要なのは、鍼灸治療を行うことが適切であるか、不適であるかの判断であると思われる。

患者が診療を求めて来所した場合、適切な鍼灸治療を行うことはもちろんであ

るが、鍼灸治療が不適と判断されるような重要な症候に対しては適切な医療機関を受診するようアドバイスをすることも重要と考えられる。

今回の講演では、日常臨床でよくみられる症候として、発疹、浮腫、関節腫脹、リンパ節腫脹などを紹介し、鍼灸診療に活用されたいと考える。



大学院医歯学総合研究科臨床検査医学分野 教授 奈良 信雄先生

「筋・骨格系の症状？もしかして！」

鑑別法とインフォームドコンセント

小川 卓良

、はじめに

三年前は癌の鑑別法について、二年前は 21 世紀の三大疾患と私が注目している、「癌」、「鬱病」、「糖尿病」の診断・鑑別から治療までの概略について、昨年は癌を除いた悪性及び難治性疾患の鑑別法と、癌を含むそれらの疾患の対応についてお話しさせていただいた。本年は少し角度を変えて、我々開業鍼灸師が常に遭遇している筋骨格系（運動器疾患）とおぼしき症状、例えば腰痛や肩凝りが主訴で来院した患者の中にその病因が筋骨格系由来でない場合か症状の無い他の筋骨格系由来の場合などが多々含まれているので、その鑑別法や「気付き」についてお話ししたい。

、鍼灸臨床の現場では

1、21 世紀 3 大疾患が原因の場合が急増

腰痛や膝痛などの筋骨格系の症状は、胸痛・腹痛等に比べて内臓由来である場合は比較的少ない。しかし、21 世紀の三大疾患と私が注目する、癌・鬱病・糖尿病が原因で筋骨格系疾患とおぼしき症状を呈する場合は急増しており、その他皮膚病や先行した感染症の後遺症が原因で筋骨格系症状を呈することも少なく、鍼灸臨床の現場においてもしばしば遭遇する。

2、整形外科領域以外の疾患が原因の場合

西洋医学は部分の医学であるので、筋骨格系の症状を有する患者は、本人はもちろんのこと、病院の受付においても整形外科を受診することがほとんどである。そして、整形外科医は専門分野においては豊富な知識を有してこそいても専門外の疾患についてはそれほど知識を有していないのが現実である。そのために、筋骨格系由来でない病態は見逃される可能性を否定できない。

3、筋骨格系疾患であっても

また、整形外科医はより専門分化しており、各部分のすなわち、腰は腰の専門家、膝は膝の専門家、更には腰でも腰椎椎間板ヘルニアの専門、脊柱管狭窄症の専門というように益々専門分化している傾向がある。そして、元々部分を診ることは得意でも、全身を診ることが不得手であるために、筋骨格系の疾患であっても、その症状が現れてない部位の障害が原因である場合にも、見逃すおそれはかなり高い。

4、西洋医学の構造上の限界（科学論）

その上に、筋骨格系の疾患は筋・腱・靭帯などの軟部組織の障害で起きることも多く、これらは画像には写らないので確実な（客観的な）診断ができない。そして、筋骨格系の症状は一つの原因ではなく多くの原因が積み重なって起きていることも多々ある。しかしながら、要素還元主義・客観性重視の医学ではこれらの問題を解決することはできない。

5、鍼灸臨床の現場では

このように鍼灸臨床の現場では、たとえ整形外科医の診断がついてはいてもその診断が正しいかどうかは鍼灸師自身が判断する必要があることを痛切に感じる次第である。

、鍼灸師ができる鑑別法

1、初診時の鑑別

1) 総論

2) 各論（頸肩痛、腰下肢痛、膝痛、手足痛）

2、経過観察における鑑別

、手術適応の場合の鍼灸師としての対応

1、医師より手術を勧められたが、忌避して鍼灸治療に委ねてくる場合

2、治療経過で鍼灸治療で初診時の予想より下回った場合

3、初診時及び治療経過中に患者より手術の可否を尋ねられた場合

、まとめ



東京衛生学園 臨床教育専攻科 講師 小川 卓良先生